時ワタリ

狼オトコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
時ワタリ

【Ｎコード】
Ｎ６８１５Ｐ

【作者名】
狼オトコ

【あらすじ】
サンタがくれるのはプレゼントで体型はずんぐりむっくり。白い髭をたくわえて優しく微笑む好好爺。

あの日までは信じてたんだ、俺だって。

プロローグ1

―1996年12月23日

「だからさ、言ってやったんだよ。そんな奴いないって。」

真田憲二は息巻いていた。

「考えてもみろよ。あんな体で煙突抜けられるか？だいたい煙突って…」

「まぁ、俺の家にもないしな。」

西田譲二が答えた。

「だろ？学校の連中だって大半がいないって言ってる。中には親が置いてるとこ見たって奴までいるんだぜ？」

「そう言ってくれるなよ。サンタが居るって信じたいじゃないか。…俺たちまだ小四だぞ？」

真田憲二は早熟な子供だった。サンタのことも随分前から疑っている。
ただ確証が掴めない。
対する西田譲二。
彼らはもう三年来の友人だが、そんな憲二に感化されることなくサンタの存在を信じている。
夢見る少年だった。

「それでさ、考えたんだ」

「…何を」

「サンタの実態を掴む。その為にクリスマス、寝ずに監視すんのさ」

「えぇぇぇ!?」

「もちろん2人で」

「えぇぇぇ!?嫌だぞ俺は!!」

真田憲二。
現実的で行動的。そして人の話しが聞けない少年。

「よしっ！！！決まりだ。２５日、俺の家で張り込むぞ」

「だから嫌だって言ってるだろ！？おい、ケンジ！…ケンジ！！！」

憲二は答えない。
その場に響くのは虚しく揺れるランドセルの音だけだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6815p/

時ワタリ

2010年12月30日23時39分発行